

検 査 部

1 構 成 員

	平成17年3月31日現在
教授	0人
助教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	2人（2人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	19人
その他（技術補佐員等）	11人
合 計	32人

2 教官の異動状況

堀井 俊伸（助手）（H12.5.1～現職）

松永 正紀（助手）（H16.6.1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成16年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	8編（1編）
そのインパクトファクターの合計	26.29
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	3編（3編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1編（1編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Horii T, Morita M, Muramatsu H, Monji A, Miyagishima D, Kanno T, Maekawa M. Antibiotic resistance in *Aeromonas hydrophila* and *Vibrio alginolyticus* isolated from a wound infection. *Journal of Trauma* 58 : 196-200, 2005.

2. Iwahara K, Tanabe C, Maekawa M. No interference by diclofenac with the new Vitros FT3II assay reagent. Clin Chem 50 (11) : 2218-2219, 2004
3. Ishikawa J, Taniguchi T, Higashi H, Miura K, Suzuki K, Takeshita A, Maekawa M. High lactate dehydrogenase isoenzyme 1 in a patient with malignant germ cell tumor is attributable to aberrant methylation of the LDHA gene. Clin Chem. 2004 50 : 1826-1828, 2004

インパクトファクターの小計 [12.51]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Maekawa M, Nagoka T, Taniguchi T, Higashi H, Sugimura H, Sugano K, Yonekawa H, Satoh T, Horii T, Shirai N, Takeshita A, Kanno T. Three-dimensional microarray compared with PCR-single-strand conformation polymorphism analysis/DNA sequencing for mutation analysis of K-ras codons 12 and 13. Clinical Chemistry 50 : 1322-1327, 2004.
2. Sahara N, Takeshita A, Kobayashi M, Shigeno K, Nakamura S, Shinjo K, Naito K, Maekawa M Horii T, Kazunori Ohnishi, Kunio Kitamura, Naoe T, Hayashi H, Ohno R. Phenylarsine oxide (PAO) more intensely induces apoptosis in acute promyelocytic leukemia and As2O3-resistant APL cell lines than As2O3 by activating the mitochondrial pathway. Leukemia and Lymphoma 45 : 987-995, 2004.
3. Takeshita A, Naito K, Shinjo K, Sahara N, Matsui H, Ohnishi K, Beppu H, Ohtsubo K, Horii T, Maekawa M, Inaba T, Ohno R. Deletion 6p23 and add (11) (p15) leading to NUP98 translocation in a case of therapy-related atypical chronic myelocytic leukemia transforming to acute myelocytic leukemia. Cancer Genetics and Cytogenetics 152 : 56-60, 2004.
4. Maekawa M, Taniguchi T, Ishikawa J, Toyoda S, Takahata N. Problem with Detection of an Insertion-Type Mutation in the BCHE Gene in a Patient with Butyrylcholinesterase Deficiency. Clin Chem 50 : 2410-2411, 2004

インパクトファクターの小計 [13.78]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 山口恵三, 石井良和, 岩田守弘, 渡邊直樹, 上原信之, 保嶋 実, 葛西 猛, 諏訪部章, 小畑律子, 賀来満夫, 金光敬二, 吉田 浩, 佐藤敏夫, 村上正巳, 高橋綾子, 伊東紘一, 渋谷泰寛, 菅野治重, 久保勢津子, 前崎繁文, 橋北義一, 猪狩 淳, 小栗豊子, 岡田 淳, 田澤庸子, 中島秀喜, 竹村 弘, 堀井俊伸, 馬場尚志, 石郷潮美, 藤田直久, 小森敏明, 一山 智, 前田重隆, 山中喜代治, 村田葉子, 相原雅典, 木下承皓, 田港朝彦, 根ヶ山清, 村瀬光春, 宮本仁志, 草野展周, 三原栄一郎, 神辺真之, 板羽秀之, 小野順子, 吉村尚江, 平潟洋一, 松田淳一, 犀川哲典, 平松和史: Meropenem を含む各種注射用抗菌薬に対する2002年臨床分離株の感受性サーベイランス. The Japanese Journal of Antibiotics 57 (1) 70-104, 2004.

インパクトファクターの小計 [0]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 堀井俊伸特集／これだけは知っておきたい抗菌薬の使い方. 抗菌薬耐性菌による感染症をどう治療するの? 臨床研修プラクティス 1 (7) 56-61, 文光堂, 東京, 2004.
2. 堀井俊伸: 連載／インфекションコントロール. 食中毒対策は初動が大切. 臨床研修プラクティス 1 (8) 113-116, 文光堂, 東京, 2004.
3. 堀井俊伸, 前川真人: 特集／どう読むか臨床検査値. 免疫学的検査－ウイルス抗体. 臨床と研究 81 (4) 645-648, 大道學館出版部, 福岡, 2004.

インパクトファクターの小計 [0]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 堀井俊伸: ここがポイント! 感染症診療と感染対策のための基本手技. 文光堂, 東京, 2004.

4 特許等の出願状況

	平成16年度
特許取得数 (出願中含む)	2件

1. 堀井俊伸, 近藤 明, 菅野剛史, 前川真人: 黄色ブドウ球菌の検査方法 (プロテインA測定による黄色ブドウ球菌感染症の迅速検査診断法). 国際出願番号PCT/JP2003/014946, 国際公開日 2004年6月10日, 国際公開番号WO2004/048975 A1.
2. 堀井俊伸, 近藤 明, 菅野剛史, 前川真人: 黄色ブドウ球菌の検査方法 (DNase測定による黄色ブドウ球菌感染症の迅速検査診断法). 国際出願番号PCT/JP2003/014912, 国際公開日 2004年6月10日, 国際公開番号WO2004/048976 A1.

5 医学研究費取得状況

	平成16年度
(1) 文部科学省科学研究費	3件 (177万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	4件 (496.47万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0件 (0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 堀井俊伸 (代表者) 若手研究 (B) 「肺炎クラミジアが分泌する封入体膜タンパク質の解析と感染症診断への応用に関する研究」150万円 (継続)
2. 堀井俊伸 (分担者) 萌芽研究 「AP-PCR-SSCPを用いた病態特異的な遺伝子多型の網羅的探索法の確立と応用」代表者 前川真人 (継続)
3. 石川仁子 日本学術振興会 「新規CKBスプライシングバリエントの臨床病理学的意義に関する

る研究」27万円

(3) 受託研究または共同研究

1. 堀井俊伸（代表者）第一製薬株式会社「第7回抗菌剤感受性年次別推移の検討」65万円（新規）
2. 堀井俊伸（代表者）住友製薬株式会社「メロペン特別調査（全国感受性調査：2004年度）」10万100円（継続）
3. 堀井俊伸（代表者）ブリストル・マイヤーズ株式会社「塩酸セフェピムと各種βラクタム系抗菌薬に対するE-testを用いた薬剤感受性および耐性の出現状況に関する検討」31万4,600円（新規）
4. 堀井俊伸（代表者）テクノシステム株式会社「画像処理を用いた細菌検査システムを開発する為の細菌学的検討」390万円（新規）

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	1件
(3) 学会座長回数	0件	1件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	6件	

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

ポスター発表

1. Horii T, Nagaoka T, Ito T, Monji A, Joko K, Muramatsu H, Takeshita A, Kanno T, Maekawa M. A new method for determination of fluoroquinolone and beta-lactam resistance in Staphylococcus aureus using a three-dimensional microarray system. 11th International Conference on Infectious Diseases, Cancun, Mexico, March 4-7, 2004.
2. Monji A, Horii T, Joko K, Suzuki T, Muramatsu H, Uemura K, Suzuki K. Rapid detection of fluoroquinolone resistance by the isothermal chimeric primer-initiated amplification of nucleic acids (ICAN) method in *Neisseria gonorrhoeae*. 11th International Conference on Infectious Diseases, Cancun, Mexico, March 4-7, 2004.
3. Joko K, Horii T, Monji A, Muramatsu H, Suzuki T. Fluoroquinolone Resistance and Meropenem Susceptibility in Clinical Isolates of *Pseudomonas aeruginosa*. 11th International Conference on Infectious Diseases, Cancun, Mexico, March 4-7, 2004.
4. Takeshita A, Naito K, Shinjo K, Matsui H, Horii T, Shirai N, Maekawa M, Ohnishi K, Naoe T, Ohno R. Efficacy of gemtuzumab ozogamicin (mylotarg) on ATRA- and/or ARSENIC-resistant acute promyelocytic leukemia (APL) cells. 9th Congress of the European Hema-

tology Association. Geneva,Switzerland,June10-13, 2004.

5. Horii T, Morita M, Ishikawa J, Takeshita A, Maekawa M. Effects of Mupirocin at Subinhibitory Concentrations on Biofilm Formation in *Pseudomonas aeruginosa*. Dosing the Magic Bullets -World Conference on Dosing of Antiinfectives (WCDA) - Celebrating Paul Ehrlich's 150th Birthday, Nurnberg, Germany, September 9-11, 2004.
6. Horii T, Muramatsu H, Monji A, Takeshita A, Maekawa M. Characterization of fluoroquinolone and carbapenem resistacnse in clinical isolates of *Pseudomonas aeruginosa*. 42nd Infectious Diseases Society of America (IDSA) 2004 Annual Meeting, Boston, USA, September 30 - October 3, 2004.

(2) 国内学会の開催・参加

3) シンポジウム発表

石川仁子, 菅野剛史, 前川真人: 血清酵素とアイソザイム, パターンの判読と異常分画パターンの解析。第54回日本電気泳動学会シンポジウム 2004.6

4) 座長をした学会名

泉 正和 第53回日本医学検査学会

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

1. Journal of Antimicrobial Chemotherapy

9 共同研究の実施状況

	平成16年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	1件

(3) 学内共同研究

1. 小出幸夫（微生物学）画像処理を用いた細菌検査システムを開発する為の細菌学的検討

10 産学共同研究

	平成16年度
産学共同研究	1件

1. 堀井俊伸 オリンパス株式会社「三次元マイクロアレイの感染症遺伝子検査への臨床応用に関する研究」

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 感染症の検査診断ならびに感染対策に関する研究（堀井俊伸）

感染症の検査診断（とくに、血液培養検査およびグラム染色による塗抹検査）について、検体採取や検査の質を向上させるために「ここがポイント！感染症診療と感染対策のための基本手技」と題したフルカラーのテキストを編著し出版した。カテーテル由来血流感染症ならびに活動性肺結核症の早期発見のための工夫やポイントも記載し、感染対策の日常業務に役立てている。

2. 抗菌薬耐性に関する研究（堀井俊伸）

①浜名湖で受傷した患者の創傷部から分離された *Aeromonas hydrophila* と *Vibrio alginolyticus* の抗菌薬耐性機序を解明した。これらの分離株は、複数の β -ラクタマーゼ遺伝子を獲得したことにより種々の β -ラクタム系薬に耐性となっていることが明らかになった。汽水湖という環境においてはこれらの菌種が共存しうる。浜名湖においても抗菌薬耐遺伝子のリザーバーとなっている抗菌薬耐性菌がいるという問題を提起した研究でもある。

②本院にて臨床分離されたレボフロキサシン耐性緑膿菌において、フルオロキノロン系薬ならびにカルバペネム系薬の耐性機序を明らかにした。パルスフィールド電気泳動パターンに関係なくフルオロキノロン系薬耐性に関連するアミノ酸変異のパターンは類似していること、カルバペネム系薬耐性はおもにOprDの変異によることなど、本院で分離される緑膿菌の特徴を知り得た。これらの結果は感染対策の日常業務に役立てている。

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

1. 黄色ブドウ球菌の検査方法「プロテインA測定による黄色ブドウ球菌感染症の迅速検査診断法」と「DNase 測定による黄色ブドウ球菌感染症の迅速検査診断法」の2項について国際特許出願を行った。

15 新聞、雑誌等による報道

1. 堀井俊伸：細菌検査の技術開発へ、静岡新聞、8月13日、2004.